



● 「2003年8月14日 ニューヨーク」について

- ・2003年8月14日、真夏のニューヨークを大停電が襲いました。停電の原因については、発電施設への落雷、火災説もありますが、オハイオ州の発電所のトラブルが直接原因という情報もあり、詳しい原因は未だにわかっていません。
- ・ニューヨークを中心に1,500万の人々が29時間にも及ぶ停電の被害にあい、人々は「暗い夜」を過ごしました。
- ・停電は午後4時過ぎに起こりました。停電によって、「エレベーターや地下鉄が止まり、乗客は中に閉じこめられた」「信号が止まり、道は車で渋滞した」「原子力発電所が停止した」「マンションなどの水道が止まり、飲み水が不足した」「家の中の温度が上がり、人々が外に溢れ出た」「商店などでは商品の略奪があった」など、街は大混乱に陥りました。

ポイント1 写真に写っている「情報」をすべて書き出させます。

ポイント2 「横たわる人々」「ペットボトル」「路上で寝ている人々」などに注目し、人々が「不安そうな表情」であることを読み取ります。

ポイント3 写真の「季節」と「時間」を確定させます。人々の服装や暑そうな様子から、夏の夜であることがわかります。

ポイント4 状況の意味を考えさせます。「どうして紙コップやペットボトルが置いてあるのか」「どうして広場のような場所で寝ているのか」を停電の被害と結びつけながら考えさせます。

1. 電気は「ライフライン」であることを授業

停電になると、街がどうなるのかがはっきりとわかる資料です。この写真から、電気は生活を支える「ライフライン」であることがよくわかります。

この写真と「エネルギー学習スキル」p7「突然停電になったら」で停電になったら家の中の何が使えなくなるのか、生活がどうなるのかを考えさせます。

子どもたちは、なかなか気づきにくいのですが、停電になると多くの家庭やビルで水道やガスが止まります。電気が「ライフライン」である理由は、人間が生活していくために必要な水やガスが使えなくなるなど、電気は生きていくために不可欠なものだからです。

2. 季節によっても停電の被害は異なる

季節によって停電の被害が異なることを授業します。この写真は夏ですが、p7「突然停電になったら」のイラストは冬です。夏と冬とでは停電の被害も違うことを授業します。

3. 停電になると街の機能が麻痺することを授業

この写真とp8「街で停電になったら」を活用し、停電になったら街がどうなるか子どもたちに答えさせます。「信号が止まる」「電車が止まる」などの意見が出ますから、そのことで、どのような状態になるのかなどを想像させ、答えさせます。

p7「突然停電になったら」で停電になったら、家の中のどんなものが使えなくなるのか答えさせます。

p7「突然停電になったら」で季節によっても停電の被害は異なることを気づかせます。

p8「街で停電になったら」で、街は電気の力がないと機能しないことを確認します。

「2003年8月14日 ニューヨーク」ワークシートの答え

- (例)
 - ・多くの人が横になっている
 - ・暗い
 - ・ペットボトルや紙コップがあるなど
- 季節は夏、時間は夜です。
人々の服装、寝ている人が多いことからわかります。
- (例)
 - ・帰宅できない
 - ・屋内が暑いから
予想を書いた後、インターネットで調べます。
- (例)
 - ・信号が使えない
 - ・車が渋滞する
 - ・多くの病院が休みになる
 - ・医療機器が使えなくなる
 - ・お店が休み
 - ・食べ物が腐るなど